

## 看護師の目から見たイラクの今

### ～1年間の駐在を終えて～

金澤絵里 (JIM-NET アルビル事務所)

皆様、いつも JIM-NET の活動に温かいご支援をどうもありがとうございます。イラク、アルビル現地駐在員・金澤絵里です。この度、任務を終え3月に帰国する事が決定いたしました。

それに伴い、これまでの1年間に渡る現地での活動を中心に振り返り、ここでご紹介させて頂きたいと思います。

#### ❖着任した頃のこと

イスラム国の影響によりモスルから多くの人々がクルド人自治区に押し寄せ、クルディスタン独立選挙の影響で長期間に渡り空港が閉鎖される等、混乱した2017年に比べると、患者さんも含めて多くの人々がモスルに戻るなど、アルビルの状況は落ち着いていた印象の強い2018年でした。私が着任したのは4月下旬でしたが、空港も3月に再開されており、特に問題もなくアルビルでの活動を始める事ができました。

5月頃から冬にかけては一切雨が降らないと聞いていましたが、私が雨女のせいか、着任当時は毎日のように雨、更にはヒョウまで降ってくる始末でした。でも現地スタッフを含め地元の人々は雨が大好きなようで、とても嬉しそうにしていたのが今でも印象に残っています。

#### ❖看護師研修から見てきた現実

プロジェクトマネージャーとして JIM-NET で1年活動してきましたが、私自身は長年看護師として日本で働いてきた経験があるため、支援先のナナカリ病院での看護師に対する研修にも深く関わってきました。



2月に亡くなったヴァネスとの最後の一枚

看護師に関しては、「やる気がない」「レベルが低い」等と聞いていましたが、物事には必ず理由がありますので、それが事実なのか、なぜそういう事が起きているのかという事に着目し、現地スタッフや医師、看護師たちから事情を聞きました。

国立の病院では国からの給料が満足に支払われず、現在は70%程度までは回復しているものの、過去には40%程度しか支払われないという厳しい時期もあったようです。現在でも、何人もの看護師が仕事を掛け持ちしているという事実を耳にして、とても驚きました。また、現地では成績ごとに進学できる学校も振り分けられるため、自らの希望で看護師になったわけではない、という方々も少なくないと思います(特に看護学校を卒業した看護師自体の地位も低いです)。さらには、看護学校を卒業した看

#### NEWS

- 看護師の目から見たイラクの今～1年間の駐在を終えて～……………金澤絵里 (JIM-NET アルビル事務所) 1  
 JIM-NET ハウス進捗状況！ほぼ完成！……………佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) 3  
 【チョコ募金御礼&イラク現地報告】チョコ募金へのご協力ありがとうございました～ローリンとアブデルアジーズの近況……………岩崎ルミ (JIM-NET チョコ募金担当)、斉藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当) 4  
 【UAE 出張報告】福島を教訓を生かせ 果たして UAE の原発は稼働するのか？……………佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) 5  
 【イベント】チョコ募金 2019 キックオフ 戦場のたんぽぽ Give Peace a Chance! / Arabic Chanoma……………6  
 鎌田代表のつぶやき「日本で武器見本市」／歴代チョコ募金の原画を展示！「戦場のタンポポ展」……………8



看護師研修修了証書を手にする参加者たち

看護師は、クルド語以外理解できない人が大多数であるため、知り得る情報も少ないという事も原因にあるのでは、と考えました。私自身、看護師は自分が望んで志した職業ですので、これらの現実を知ること、いろいろ考えさせられました。

これは私のエゴかもしれませんが、少しでも看護師という仕事を好きになってほしい、看護師であることに誇りを持ってもらいたい、という思いから看護師の責任、看護記録などに関する研修を通して看護師の専門性などを訴えかけました。参加者の皆さんは熱心に最後まで講義に耳を傾けてくれ、今後の意欲も示してくれましたが、これからも研修などを通して長期的に働きかけながら、サポートしていく必要があると感じています。

#### ❖子どもたちとの出会い

支援先のナナカリー病院では、多くの子どもたちと出会い関わってきました。その中でも印象に残るのは、モスル出身の患者さんであるオマルくんです。イスラム国がモスルを攻撃した当時、オマルくんは多くの人々が殺されていく姿を目撃した事で大きな衝撃を受けると共に、心に深い傷を負いました。

当時お父さんは警察官として働いていたので、イスラム国に狙われてしまう危険があったため、先に家を出て避難しました。その後、他の家族全員も無事避難しましたが、家の中のすべての物はイスラム国に奪い去られてしまいました。現在は家族全員でモスル郊外のガイヤラに住んでいるのですが、これまで警察官とし



オマルくん（右）JIM-NET スタッフのバルザンと一緒に

て働いてきたお父さんの給料は、この3年間一切支払われていないそうです。オマルくんは、2017年（9歳の時）に背部の痛みが出現して病院を受診し、悪性腫瘍と診断されました。医師には手術により歩けなくなる可能性があるという説明を受け、その後手術をして摘出はしたのですが、現在は胸から下の感覚がありません。さらに現在全身の状態も良くないので、化学療法を再開する事ができません。体に不自由があり、時には泣いてしまうほどの痛みが出現する日々の中で、私たちに対していつも「ありがとう！」と言い、人に心配かけまいという気遣いからか、「大丈夫、元気だよ！」と溢れんばかりの笑顔で答えてくれます。彼の存在は私たちだけでなく、周囲の人々を癒やしてくれます。10歳のオマルくんから、いろんなつらい経験を乗り越えてきた強さ、逞しさを感じます。

私たちはJIM-NETとして患者さんたちに対して支援している側なのですが、日々患者さんや、ご家族からも学ばせていただいています。

#### ❖ピア・サポートの試み

2018年、新たな試みとしてピア・サポートを行いました。患者さんのご家族を招待し、それぞれの気持ちを出してもらいました。その中で、お互いに共感し合ったり、困ったことをアドバイスし合ったり、参加してくださったご家族はとても満足していただきましたが、私たちJIM-NETにとっても、普段患者さんや、そのご家族と関わる中では知り得なかった、今後取り組む必要のある問題点を知る事ができる大事な機会となりました。



がん啓発活動の一環として、学校を訪問

#### ❖「がん」という病気への理解を深めるために

現地では、がんに対する偏見や誤解が根深く存在しており、親戚からサポートを受けるどころか、逆に接触したら感染すると誤解され縁を切られてしまったり、縁を切らないまでも、同じ皿で食べ物をシェアする事で感染すると誤解され、食事を別に用意されたり、幼い患者さん自身が傷つく場面が多く存在します。さらに、医師から許可され学校に復学しても、学校の先生たちががんに対する誤解や偏見があるために、部屋を別にされたり、他のクラスメイトと大きく距離を置いて机を配置されたり等、そのよう



な現実も存在します。ご両親が我が子のために学校に抗議したりする中で、その行動をサポートしたり、必要時介入していく必要があると感じました。

JIM-NET ではがん啓発活動を通して、がんへの偏見や差別をなくすために学校を訪問してがんに対する正しい知識を子どもたちに伝えています。地道な活動ではありますが、広くがんに関する正しい知識が浸透していくよう今後も活動を続ける大切さを痛感しています。

#### ❖ JIM-NET ハウス、ついに完成へ

着任当時は更地だった JIM-NET ハウスも、間もなく完成という所まで来ています。この一年、徐々に出来上がる JIM-NET ハウスを傍らで見ながら過ごしてきましたが、いよいよ JIM-NET ハウスがオープンする日がそこまで来ていると思うと、とても嬉しく思います。JIM-NET では遠方から来る患者さんの家族に対

してモートルの2部屋を提供させていただいていますが、部屋の数に限りがあるため、必要な方々全員に提供できている状況ではありませんでした。しかし、新しく開設する JIM-NET ハウスではご家族の宿泊先として提供できる部屋数も増え、これまで以上に安心してご利用して頂けると思います。

さらに JIM-NET ハウスでは、美術や音楽などのアクティビティも充実させ、心理的サポートも含めて患者さん、サバイバーに対して充実したプログラムを提供する予定となっています。JIM-NET ハウスの建物は、遠くから眺めても誰もが注目するぐらい目を引くので、オープン後は子どもたちが沢山集まり、JIM-NET ハウス全体がとても賑やかになる様子が目に浮かびます。

この1年間、私自身多くの事を現地で学ばせていただき、とても感謝しています。今後とも JIM-NET の活動に皆様の応援、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

## JIM-NET ハウス進捗状況！ほぼ完成！（2月28日現在）

JIM-NET は、遠方から治療に来ている付き添いの家族のために現在モートルを借り切っています。金澤の文中に出てくるオマル君の暮らすガイヤラは、モスルの病院からは少し離れており、イスラム国から解放されたとはいえ、まだ治安は安定していないところを通らないといけません。報道によるとイスラム国の戦闘員がシリアから国境を越えて入り込んでいて、2月28日には、モスル大学の前で車が爆発し1名が死亡。14名が怪我をするというテロが起きています。アルビルまで出てきたほうが安全なので、モートルは重宝しています。

この前、ナナカリー病院の前にビニールのテントが張っており、のぞいてみると、クルドの患者の家族が住んでいました。聞くと4歳の女の子ががんになり、100km離れたアクレという村から家族総出でやってきたものの、泊るところがないのでテントを張ったそうです。

JIM-NET が借りているモートルは、予算の都合で2部屋のみ。すでに、モスルとシリアからの患者家族が利用しているので空きがありません。利用者に協力してもらってシャワーを使ってもらえるように調整しました。

新しい JIM-NET ハウスができると、家族用ルームが2部屋とシングルルーム4部屋ができ、より多くの家族たちが泊まれ彼らの負担が少なくなります。完成が待ち遠しいです。

JIM-NET ハウスを一緒に運営するナナカリー病院や現地の NGO とも協議をはじめ、5月の終わりには、鎌田代表も現地を訪問してオープニングセレモニーを行う計画を立てています。日本からも多くの皆様に来ていただき、がんの子どもたちの絵画教室、音楽教室などの活動に参加していただけるようなツアーも検討していますのでご期待ください。（佐藤真紀 JIM-NET 事務局長）



ナナカリー病院の前に張られたテント。JIM-NET ハウスの完成を待ちわびている。



完成間近の JIM-NET ハウス。外壁は、遠くから見ても Happy になれるようにと赤、黄、グレー、ブルーを大胆に佐藤事務局長が自らデザインした。左が局長、右は患者の家族。

# チョコ募金へのご協力ありがとうございました ～ローリンとアブデルアジーズの近況～

岩崎ルミ (JIM-NET チョコ募金担当)、斉藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当)

チョコ募金 2019 へのご協力くださり、大変、ありがとうございました。

今回のチョコ募金も、皆さまのご協力のお陰で、無事に受付を終了いたしました。今年度は1万個減らして、15万個での取り組みでしたが、受付スタートと同時にたくさんのお申込みをいただきました。

大竹まことさんの「ゴールデンラジオ」では、代表の鎌田がチョコ募金の話をしていただき、直後からお申込みの電話が鳴りっぱなしでした。また、村上信夫さんと鎌田の「日曜はがんばらない」でも、毎年番組内でチョコ募金を宣伝してくださり、リスナーの方々からたくさんのお申し込みを頂いております。

今回も多くの皆さまの温かい応援に、心から感謝申し上げます。

チョコ缶にたんぽぽの絵を描いてくれた4人の子どもたちの中から、ローリンとアブデルアジーズの近況をお伝えします。



## ♥ローリン

16歳になったローリンはがんの治療も終え、抗がん剤の影響で時々腹痛に見舞われることもあるものの、学校に戻り2年目になります。「将来は自分の病気を治してくれたペイマン先生のようなお医者さんになりたい」という夢を持ち続け、勉強に励んでいます。昨年、弟が交通事故で亡くなるという不幸に見舞われ、2か月間喪に服し、学校に行かない時期もありましたが、学校でできた友人たちの支えもあり、元気に学校に復帰しています！



JIM-NET スタッフは治療のため学年が遅れてしまったローリンが、クラス内でうまくやっているかどうかとても気にかけていましたが、そんな心配もなんのその。仲の良いクラスメイトとは放課後に家に行き来しながら遊んだり、大好きな絵を描いたり、ボールで遊ぶなど活発に遊んでいるとのこと。近況報告を受けたスタッフはかつて瀕死だったローリンを知るだけに顔もほころび、嬉しそうに報告にきました。

## ♥アブデルアジーズ

昨年学校に復学した16歳のアブデルアジーズ（写真左）ですが、実は今年に入り学校に行っていない状況が続いています。健康状態は悪くないのですが、学校側の判断で7年生（中学校1年）から5年生に学年を下げられてしまい、お父さんが学校に行くことを止めてしまっているとのこと。

このようなことが起こった時こそソーシャルワーカーの出番。がんの子どもたちの心理的ケアやサバイバーとその家族のケアを行う他団体とも手を取り合って、アブデルアジーズが再び学校に戻れるように後押ししていきたいと思います。



## 今治タオルハンカチ、新デザイン登場！

チョコ募金 2019 のデザインとなったたんぽぽを、今治タオルハンカチに刺繍として入れました。

たんぽぽの絵を描いてくれたラワンの名前もアラビア語で刺繍されています。タオル生地の色は茶色です。ふわふわの生地で、プレゼントにもおすすめです！（大きさ 25 センチ角・1 枚 800 円・送料別）



## 人気募金グッズ紹介

ハウラの赤い花・クリアファイル  
白地に、イラクの少女ハウラが描いた赤い花をあしらいました。  
ハウラは、お花の絵がとても上手で、たくさんのお花を描いてくれましたが、その中でもこの赤い花は人気です。（A4 サイズ・1 枚 300 円・送料別）



お申込みはこちら 電話：03-6228-0746 email:info-jim@jim-net.net



## 福島教訓を生かせ 果たして UAE の原発は稼働するのか？

佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）

JIM-NET は、「福島教訓を市民としてどう世界に伝え、さらなる災禍を防いでいくか」をテーマに JANIC、CWA、ピースボート、福伝といった NGO と一緒に、「福島から学ぶ 10 の教訓」ブックレットの普及を行っています。

アラビア語圏とトルコを主に JIM-NET が担当しています。今までヨルダンで活動をしていましたが、今回は中東発の原子力発電所が間もなく稼働しようとしている UAE（アラブ首長国連邦）で調査を行いました。

UAE といえば、石油と天然ガスで潤っている国という印象が高いですが、ドバイやアブダビは、観光にも力を入れている都市です。急速に経済発展し、電力需要が伸びたために、原子力発電所が必要という話になり、2009 年には韓国が受注しました。

当初 2017 年から 1 号機が稼働する予定でしたが、2018 年に工事は終わったものの、稼働は 2019 年末もしくは 2020 年まで遅れるとのことです。

日本政府は、2013 年に UAE との間で原子力協定に署名しており、韓国が原発建設を受注した後も、日本企業がかかわれるように動いています。

そこで、気になるのは、福島教訓がどのように生かされているかです。

リスクは自然災害だけではなく、UAE は近年、イエメンの内戦、シリアの内戦に積極的に介入し軍隊を送っています。対岸のイランとの関係も緊張が続いています。もし戦争が起これば原発がターゲットにされるかもしれません。

実際に 2017 年 12 月 3 日には、イエメンのイスラム教シーア派武装組織「フーシ」が UAE にある建設中の原子力発電所に向けて「巡航ミサイルを発射した」と発表しました。

UAE 当局は即座に「ミサイル攻撃を受けた事実はない」とフーシ側の主張を否定していますが、今後このようなテロ攻撃が起これば可能性が非常に高くなっています。

もし事故が起きた時、福島教訓は非常に有益なものになるでしょう。そこで、今回「福島から学ぶ 10 の教訓」ブックレットを UAE の政府機関や、NGO に紹介することになりました。

訪問したのは、UAE 原子力委員会（ENEC）と、原子力規制庁（FANR）、ドバイ政府から委託を受けて環境問題の啓発活動を行っている団体などでした。

UAE 政府は、福島事故後「福島教訓」を学ぶために、2012 年に 20 人ほどのチームが福島を訪問したそうです。そして、2 年間かけて、福島教訓を生かし、安全な原発建設にこぎつけたとのこと。

現在、1 号機工事が終わり燃料棒を入れる直前。2 号機は、93%まで完成しており、一年ごとに 3 号機、4 号機を完成させる予定。完成すれば、25%は原発で賄うことになりそうです。

原子力教育にも力を入れており、「事故のことばかり伝えるのは、住民を不安にする。原子力が安全であることを理解してもらうことが重要」。

イエメンからのミサイル攻撃に関しては、「彼らのデマでありそのような事実はない」といい、テロのリスクマネジメントは、軍隊が担当しているとのことで、日本よりはすんでいる印象を受けました。

何よりも UAE の原発事業は透明性を持っており、「国家事業であり、ビジネスを優先するものではないので、安全性に配慮し、急ぐつもりはない」とのことでした。

一方、ドバイの環境系 NGO も訪問しましたが、持続可能なエネルギーの推進を行っているものの、原発の問題を真っ向から扱ってアドボカシーしている団体には今回会うことができませんでした。

UAE の市民社会が、こういった声をあげていけるのか？私たちが彼らにどのように協力していけるのかが一つの課題でしたが、UAE は、人口の 13%が UAE 国民。残りは外国人労働者で、政治には参加できないし、発言権もありません。市民としての視点が難しいだけでなく、もし事故が起きたら？外国人労働者は、どのように避難が指示されるのか？きちんと情報が知られるのか？等気になりました。最後に今回調査に協力してくださった慶応大学生の中村友紀さんに感謝いたします。引き続き JIM-NET は、UAE の原発に注視していきます。



## ♥ JIM-NET イベント報告 ♥

JIM-NET では、活動の内容やイラク・中東の現状をお伝えするため、様々なイベントを開催しています。  
今回はその中から、チョコ募金の時期に開催した2つのイベントをご紹介します。

### ①チョコ募金2019キックオフ 戦場のたんぽぽ Give Peace a Chance!

2018年11月9日（金）南大塚ホール

司会：斉藤とも子（俳優）

登壇者：相澤恭行（ギター）、荻野仁子（ウッド）、湯川れい子（音楽評論家・作詞家）、八木倫明（ケーナ奏者）、いちよ・きよ・やぎりんバンド（八木倫明【ケーナ】、枝元一代【歌】清永充美【ギター】）、鎌田實（JIM-NET 代表理事）、佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）

チョコ募金キックオフは、満員御礼で当日を迎えることができました。

イベント前半は、相澤さんと荻野さんによる「ナツメヤシの樹の上で」のアラブ音楽らしいメロディーで勢よくスタート。後半は、いちよ・きよ・やぎりんバンドの皆さんによる演奏でメキシコやイングランド民謡に加え、A. マックブルーム作・高畑勲さんの訳詞「愛は花、君はその種子」を披露くださいました。

クロストーク「戦争と平和～どうしたら戦争のない平和な世界を作ることができるのか？」で語られた斉藤さん、八木さん（やぎりん）、湯川さん、鎌田代表理事、佐藤真紀事務局長のお話の一部をご紹介します。

やぎりん 僕も実は、なぜ戦争が始まるか、よく考えています。きっとお金とか、物欲とか、権力欲とか、戦争が始まると儲かる人がいる。いつだったか、「戦争が始まらないかな」と言った大臣がいた。権力を持っている人たちにつながる。なかなか戦争がおきない日本は、憲法9条のおかげで、平和だった。そういう時にどうしたら武器商人の人たちが儲かるかという、「抑止力」という人がいる。

湯川 考えてみてください。日本には憲法9条があったから、まず朝鮮戦争の時、派兵しなくて済んだ。ベトナム戦争もそう。9条が、国の縛りとして、政治家を縛っていたから、民衆を縛ったのではない。日本の憲法はちゃんと、権力者を縛るためのものです。あの9条があったから、私たちは、ベトナムに派兵しないで済んだ。



©Rei Shiva

湾岸戦争の時もそう。誰もそのことを言わない。でも考えたらわかる。(9条が) あったおかげで、自分の子どもや孫を戦場に送らないですんだか。アメリカに押し付けられた憲法だからじゃない。私たちが73年間守ってきた憲法だからです。今、守らなくてどうするのか。一人一人が守るしかない。それが私は、WAR IS OVER ! If you want it というメッセージだと思います。



©Rei Shiva

そして、Give peace a chance なんです。平和平和と言っても、勝手に平和にはならない。私たちが平和にチャンスを与えないと、平和なんて、あつという間になくなってしまいます。第二次世界大戦の時がそうだったように、ドイツのナチスが台頭した時がそうだったように、あつという間に戦争になる。もうそうなったら引き返せない。誰にも止められない。

私は、覚えている。8歳のころ、「アメリカが入ってきたら、これで戦え」と竹やりを持たされ、小学校2年生、毎日竹やりで戦う気でいた。そんな馬鹿な話はない。でも、それが現実。明日そうなるかもしれない。私は、絶対嫌です。

佐藤 今回ハガキに、WAR IS OVER! のISにUSAをかけて書いた。シリアやイラクの人たちは、イスラム国にも苦しんで、その後イスラム国がいるからと米軍にもボコボコにされて、瓦礫があちこちに転がっていて、そこを歩くと、足の裏で感じる戦場がある。そこにはまだ地雷があるかもしれないし、遺体が残っているかもしれない状況を歩いて来て、シリアの戦争であり、イラクの戦争だから関係ない、みたいになっている。でも、日本はイラク戦争を支持している。遠い国から、日本は平和がいい、戦争という言葉は嫌いというだけで、無関心である。でも、僕たちも望まないと、イラクの戦争、シリアの戦争は無くならないんだということを言いたかった。

鎌田 僕たちが、真紀さんたちとチョコ募金を開始したのも、戦うことを違うスタイルで、湯川先生は音楽を通してだし、真紀さんは絵を通してチョコ缶にデザインをして、新しいビジュアルに見る形で戦い方を構築していった。僕は、イスラム国がイラクを僭越していく時に、やはり同じように暴力でイスラム国と戦うのではなく、僕は聴診器でテロと戦おうと思った。

それぞれが、新しい戦い方を構築しながら、平和へ向けていくことが、すごく大事なのではないか。

斉藤 戦い方とは、エイエイオーと自分たちが正しくて、相手が間違っていることじゃなくて、湯川先生や鎌田先生がおっしゃったように、医療支援や、音楽というのは、誰も傷つけない。本当によく考えたら、誰もが絶対必要なもの。そういう「戦争やめろ」という、マイナスの抑え込むエネルギーよりも、今自分ができすることで、誰でも絶対同じだね、ということを見つけて、ただやる。芽が出ようと出まいと関係ない。今、ただ続けていくことを諦めないことが大事なのでは。

湯川 絶対諦めないこと。(崔 麻里 JIM-NET イベント・広報担当)



## ②くつろげるお茶の間のような空気と共に Arabic Chanoma

2018年12月7日（金）VACANT・原宿

司会：アーヤ藍（ライター・映画探検家）

登壇者：サヘル・ローズ（女優・タレント）、安田菜津紀（フォトジャーナリスト）、鈴木雄介（ドキュメンタリーフォトグラファー）、斉藤亮平（JIM-NET スタッフ）

通例の報告会形式ではなく、「中東地域でお茶に誘われた時に感じる温かい空間を再現し、そんな中でお話を聞いていただきたい。中東・アラブ地域で起きていることを中心に JIM-NET の活動紹介やチョコ募金の呼びかけにも繋げたい」という思いから Arabic Chanoma と題し開催された当イベント。広報担当の崔より挨拶とチョコ募金の説明、司会のアーヤさんからイベントの趣旨をお伝えし本編がスタートしました。

紛争開始直前までシリアに滞在していたアーヤさんは「色々な所を旅しましたが、一番平和を感じた場所でした」と語り、斉藤からは「シリアの田舎を旅していたら声をかけられるがままに家にお邪魔し、気付いたらパジャマまで用意されていた。」というエピソードも紹介されました。またシリア紛争の最前線をアレッポで取材した鈴木さんは、当時前線で戦う兵士の家に寝泊りをし、温かくその彼の一家に迎えられたといいます。「これは平和な日本の話ではなくて、朝から夜まで爆撃と銃撃音がずっと聞こえている、戦争をやっている国の話です。」という言葉に会場の人たちも一様に驚いている様子でした。

サヘルさんはイラク・イラク戦争で家族を失った事や自らの生い立ちに触れ、それでも義母から「戦争の相手国を恨むのはやめて。（中略）許すことを学びなさい、許すことで未来に光を差し込むことができるから、とにかく許せる人間にならなさい」という教えが大きく人生を変え、現在は自らの経験をもとに国や地域に関係なく困難な状況にある子どもたちを支える活動を行っていると言っていました。



©Kei SATO

安田さんは食文化を通し日本で難民認定を受けた方々の声を伝える連載も続け、その彼らの声を日本で作る故郷の料理の写真と共に紹介していただきました。またシリア取材中に訪れた心温まる食堂の話にも触れつつ、「いつか民族だったり、分断の違いを超えて、一緒にまたお茶の間を囲める日がくるために、私たちに

できることは何なのだろうということを、引き続き皆さんと分かち合っていければと思っています。」と会場に語りかけました。



©Kei SATO

後半は斉藤から現在建設が進む JIM-NET ハウスを紹介し、心安らげる「茶の間」のような空間を作りたいとの意気込みが語られました。またこのイベントの様子は12月9日にNHK総合（毎週日曜午後6時05分～）「これでわかった！世界のいま」で紹介され、サヘルさんが当ハウスについて「子どもは親がすぐそばで宿泊できることでそれがエネルギーに変わると思う。（病室と一緒に泊まれない家族にとって）こういう家の存在がすごく必要なのではないでしょうか。」とコメントを寄せました。

また会場では鈴木さん、安田さん、斉藤が撮影したイラクやシリアの様子を伝える写真が展示され、がんに苦しむイラクの女の子やシリアで銃を持つ青年たち、紛争前の豊かなシリアの光景などの写真を前に、足を止め、思いを巡らせている方々も多くいらっしゃいました。最後は特別に企画された安田さんとサヘルさんによる朗読コーナー。予めHPで集められた今年のチョコ缶のデザインとなった「たんぼぼ」にまつわる言葉をお二人が紡いでくださいました！柔和な声に包まれたその言葉と声は会場中を包み込み、たんぼぼの綿毛のように来場者の方々に舞い降りていくかのようでした。

今後も新たな試みのイベントとして「Arabic Chanoma」を開催できるようにしていけたらと思っておりますので、ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

（斉藤亮平 JIM-NET 海外事業担当）



©Kei SATO



## 鎌田代表のつぶやき『日本で武器見本市』

イギリスの民間企業 MAST コミュニケーションズが6月中旬、日本で武器見本市を開催することに対して、波紋が起っています。

イラク支援を続けて来たなかで、テロ組織イスラム国の暴力に苦しむ人たちをみてきました。



クルドにもアメリカ製の自動小銃が見られるようになった。

イスラム国が使っていた武器は、アメリカや NATO の国々の武器が流れてきたものといわれています。

武器は、一度その国に売られても、その後、どこに再輸出されるのかわかりません。

アメリカをイラク戦争へと動かしたのは、武器を作っている会社だったのではないかともいわれています。

戦争は、武器メーカーや武器商人にはおいしい話なのです。

しかし、その戦争によって破壊され、傷つけられるものの大きさは計り知れません。

武器で儲けようという動きの一方で、武器や核兵器を作っている会社には投資しないという銀行も出てきました。いいことです。

日本は、1976 年の事実上の全面的武器輸出禁止が、内閣の統一見解でした。

武器輸出三原則を、もう一度尊重してもらいたいものです。

(鎌田 實 JIM-NET 代表理事・医師)



クラスター爆弾

## 歴代チョコ募金の原画を展示！「戦場のタンポポ展」

有楽町のギャラリー日比谷で2月8日～13日まで「戦場のタンポポ展」が開催されました。

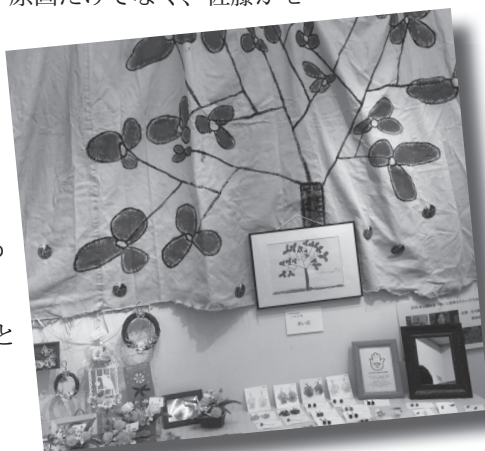
今回は、JIM-NET が2006年から始めたチョコ募金のパッケージすべてと、原画を展示しました。チョコ募金は、毎年テーマを決めて取り組んできました。時には真正面から戦争反対を訴えたり、2011年の津波と原発事故、イスラム国の占領や難民問題などに取り組んできました。がんの子どもたちの絵を扱うことは、責任の重い仕事でした。チョコ募金をしてくださった方が、あの子は元気？といった質問にも答えなければなりません。元気になった子を追っかけるのはとても楽しいことですが、すでに亡くなった子もいてそういう時はとてもつらい思いをします。

今年のテーマの「戦場のタンポポ」では、原画だけでなく、佐藤がモスルや、ダマスカスで撮影した瓦礫やイスラム写真をパネルにして無造作に並べた作品を造りました。中にはイスラム国の兵士の遺体や、不発弾のパネルも混ざっています。

JIM-NET が始まって15年、その間に失われた子どもたちの命にささげた作品でした。

会場にいらしてくださった皆様、ありがとうございました。

(佐藤真紀 JIM-NET 事務局長)



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット) 電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net  
Facebook アカウント名、『jim-net』で検索 Twitter アカウント名、『JIM\_NET』で検索 HPはこちらのQRコード→  
郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット (募金・サポーター会費はこちらへお願いします)

